

回覧



栃木県文化功労者受章記念  
環境陶芸の地平  
藤原郁三展

2026.6.7[日] → 8.23[日]

開館時間 / 9:30 → 17:00 ※入館は16:00まで 休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌日)

■主催 / 益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館 協賛 / 益子町地域間交流協会

■後援 / 下野新聞社、とちぎテレビ、栃木放送、エフエム栃木、ももか新聞plus

■入館料 / 大人600円(550円)、小中学生300円(250円)

※( )内は20名以上の団体 / 65歳以上は300円(要説明) ※6月14日[日]は、6月15日[月](栃木県民の日)に替わり入館無料  
今後の状況により、展覧会予定に変更が生じる場合がございます。最新情報は、当館ホームページ・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

益子陶芸美術館  
Mashiko Museum of Ceramic Art

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021  
TEL: 0285-72-7555  
www.mashiko-museum.jp

「壺」1978年 花王石鹸  
※本学は陶芸パネルでの展示と異なります。



「立」1995年 和の代温泉 撮影：佐藤振一



「利」1982年 栃木県立博物館

※写真パネルでの展示となります。



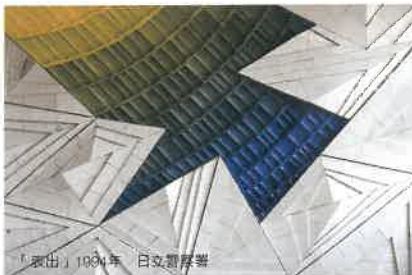
「面」1991年 滋賀シティプレイス



「立」2001年 栃木県立栃木女子高等学校

「陶壁」とは陶素材による壁面装飾で、戦後に登場し、主に1970年代から多く用いられるようになった名称です。陶磁製の建材は、イスラムのモザイクタイルやデルフトタイルなど、古来から数多く用いられてきました。一方、木造建築が主流であった日本では、瓦は用いられていたものの、タイルなどの壁面装飾が登場するのは明治期にまで下ります。近代以降、鉄とコンクリートによる建物が作られていくにつれ、陶壁の需要も増え、1970年代に急増しました。

本展では、一昨年に栃木県文化功労者となった、益子を拠点に活動する陶壁作家、藤原郁三(1946～)の仕事を紹介します。藤原は大阪に生まれ、1966年から1970年に東京藝術大学美術学部日本画科で学びました。卒業後はKK河合紀陶房に入社し、成田空港をはじめとする陶壁制作を行いました。1974年の独立後最初に手がけた「栃木県立太平少年自然の家」での仕事をきっかけに、1983年益子に「藤原陶房」を設立、以降益子を拠点に制作しています。これまで手がけた作品数は、全国約700か所におよびます。藤原が取り組む陶壁作品の表現パターン「列、合、重、動、集、表出、面、相、立」について、写真や図面、模型を中心にご覧いただけます。



「表出」1984年 日笠温泉荘



「面」2000年 大塚商会

### イベント

作家によるギャラリートーク

■日時/6月7日[日] 11:00～

■会場/益子陶芸美術館 展示室 ※要展覧会チケット、予約不要

### Access

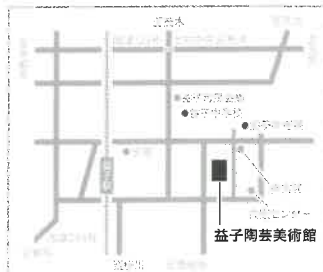
## 益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

TEL: 0285-72-7555

www.mashiko-museum.jp



### 次回展のご案内

江崎一生・加守田章二・森陶岳  
1969-71 | 変容する陶の交差

2026 9月6日[日]～11月29日[日]

※今後の状況により展覧会予定に変更が生じる場合がございます。最新情報は当館ウェブサイト・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

アクセス：【バス】東武宇都宮駅(西口1番バス乗り場)、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東バス益子行(約60分)、またはJR秋葉原駅から茨城交通高速バス「関東やまのライナー」空閑・益子行(約2時間50分)で益子陶芸美術館入口下車徒歩約2分。【鉄道】JR小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道で益子駅下車徒歩約25分。【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道桜川筑西ICから約20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道真岡ICから約25分。 ※運行状況は各交通機関にご確認ください。